

平成25年度 第3回 ハタハタ資源対策協議会資料

1 秋田県のハタハタ漁獲量

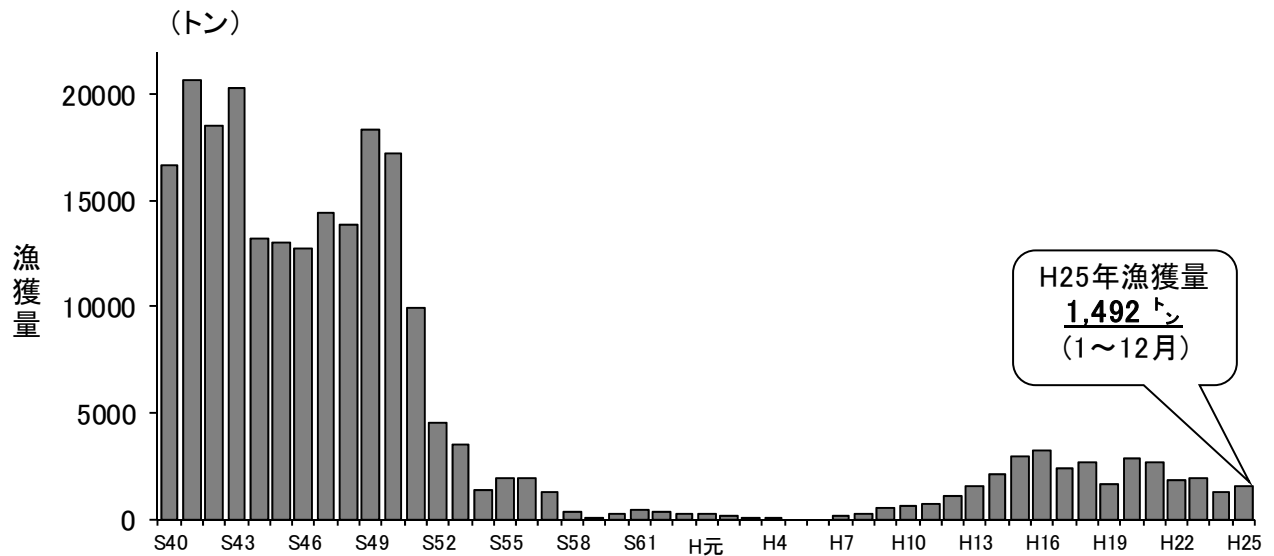
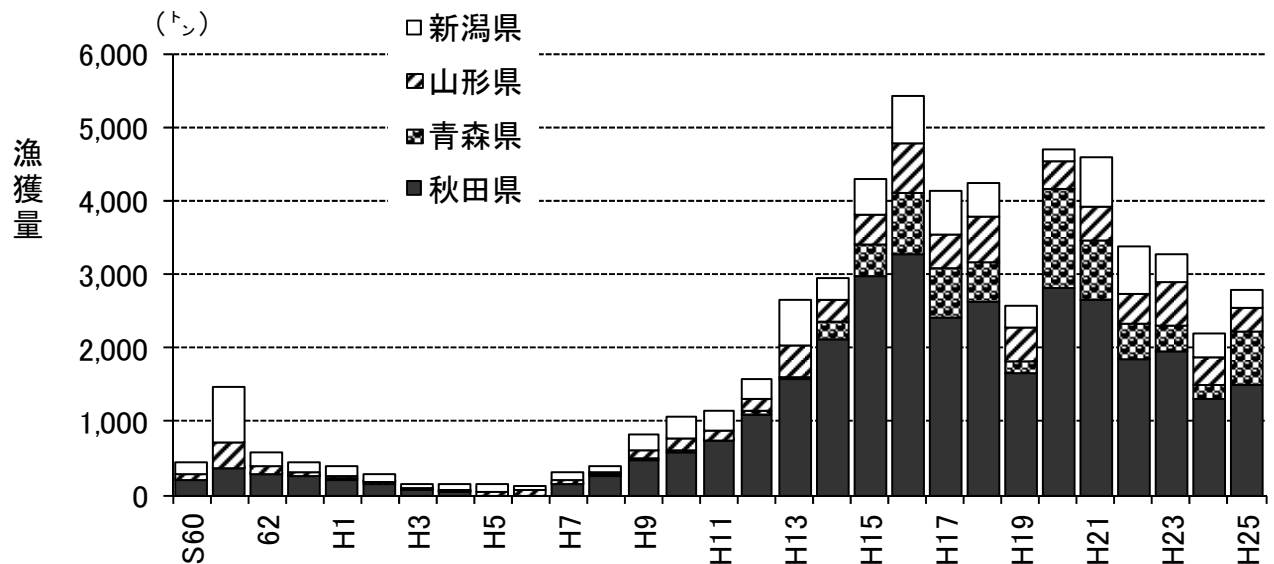


図1 秋田県のハタハタ漁獲量
(H24年まで農林統計、H25年は秋田県調べ)

●H25年1～12月の漁獲量は1,492トで、前年(1,296ト)の 1. 2 倍 となった。

2 日本海北部4県の漁獲量



3 漁獲枠と漁獲実績

表1 秋田県におけるハタハタ漁獲枠と漁獲実績の推移

年	沖合			沿岸			合計		
	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年 ^{※1}	85	54	63	85	89	104	170	143	84
8年 ^{※1}	110	86	78	110	157	143	220	243	111
9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
14年	680	384	57	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
15年	960	907	94	1,440	2,051	142	2,400	2,958	123
16年	1,000	707	73	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
18年	800	944	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
19年	720	847	118	1,080	765	71	1,800	1,612	90
20年	1,200	868	72	1,800	2,035	113	3,000	2,903	97
21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
25年	768	557	72	1,152	898	78	1,920	1,455	76

※1 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期（9月～翌6月）の値

※2 今漁期は1月末までの値（水産漁港課調べ）

4 漁獲量と漁獲金額

表2 ハタハタ漁獲量と漁獲金額の推移（秋田県調べ）

年	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg)		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計
7年 ^{※1}	54	89	143	196,724	239,821	436,545	3,658	2,703	3,063
8年 ^{※1}	86	157	243	224,558	280,367	504,925	2,607	1,783	2,075
9年	148	280	428	218,367	477,568	695,936	1,474	1,706	1,626
10年	162	438	599	202,342	411,845	614,187	1,252	941	1,025
11年	142	580	722	190,537	597,957	788,495	1,338	1,031	1,091
12年	265	902	1,166	186,801	557,096	743,897	706	618	638
13年	506	986	1,493	450,761	638,527	1,089,289	890	647	730
14年	384	1,570	1,954	214,761	530,312	745,072	559	338	381
15年	907	2,051	2,958	452,811	606,298	1,059,109	499	296	358
16年	707	2,349	3,055	272,221	678,022	950,242	385	289	311
17年	489	1,867	2,356	236,381	555,949	792,329	483	298	336
18年	944	1,640	2,584	365,188	458,605	823,793	387	280	319
19年	847	765	1,612	494,974	296,431	791,405	584	387	491
20年	868	2,035	2,903	257,041	346,654	603,695	296	170	208
21年	1,054	1,475	2,530	305,754	293,277	599,031	290	199	237
22年	457	1,277	1,734	214,136	352,280	566,416	468	276	327
23年	677	1,287	1,964	275,345	265,686	541,031	407	206	275
24年	376	931	1,307	196,639	344,001	540,640	523	369	414
25年	557	898	1,455	241,138	320,009	561,147	433	356	386
H25/H3	10.4	10.1	10.2	1.2	1.3	1.3	0.1	0.1	0.1
H25/H24	1.5	1.0	1.1	1.2	0.9	1.0	0.8	1.0	0.9

※1 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期（9月～翌6月）の値

※2 今漁期は1月末までの値（水産漁港課調べ）

5 漁獲金額と単価

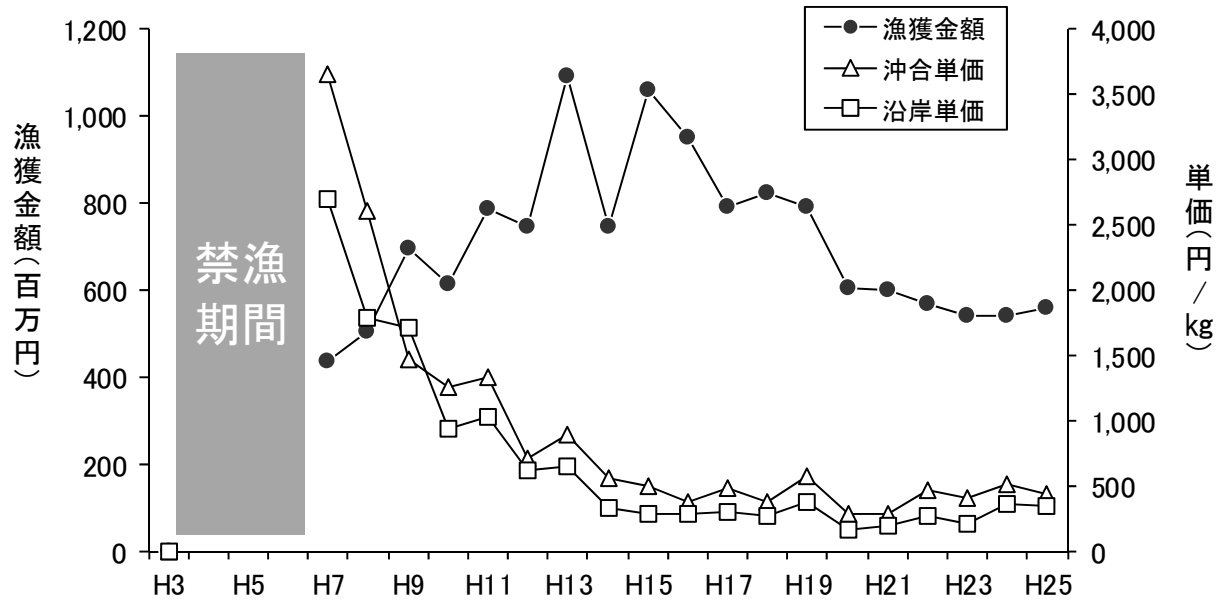


図3 ハタハタの漁獲金額と単価

※ 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期（9月～翌6月）の値

※ 今漁期の沿岸は1月末までの値（秋田県調べ）

● 今漁期（H26年1月まで）の漁獲金額は5億6,100万円であった。漁獲量が前年比1.2倍に増加したのに伴い、漁獲金額も前年（5億4,100万円）を僅かに上回った。

● 1kgあたりの単価は、沖合が433円（前年比－90円）、沿岸が356円（－13円）であり、沖合・沿岸ともに前年に比べ僅かに低下した。

6 沖合・沿岸別漁獲割合

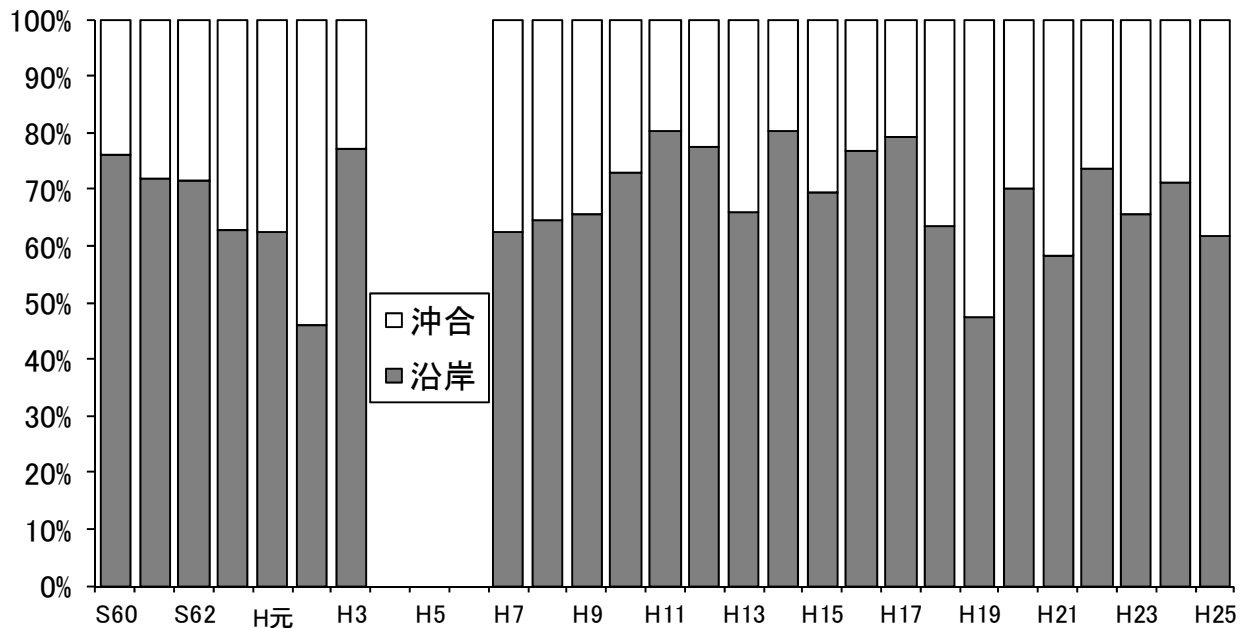


図4 秋田県における、沖合・沿岸別漁獲割合

※ 沖合、沿岸とも管理漁期（9月～翌6月）での漁獲量（水産漁港課調べ）

● 今漁期は沖合の比率が38%となり、前年（29%）に比べて9ポイント増加した。

7 底びき網漁獲量の推移

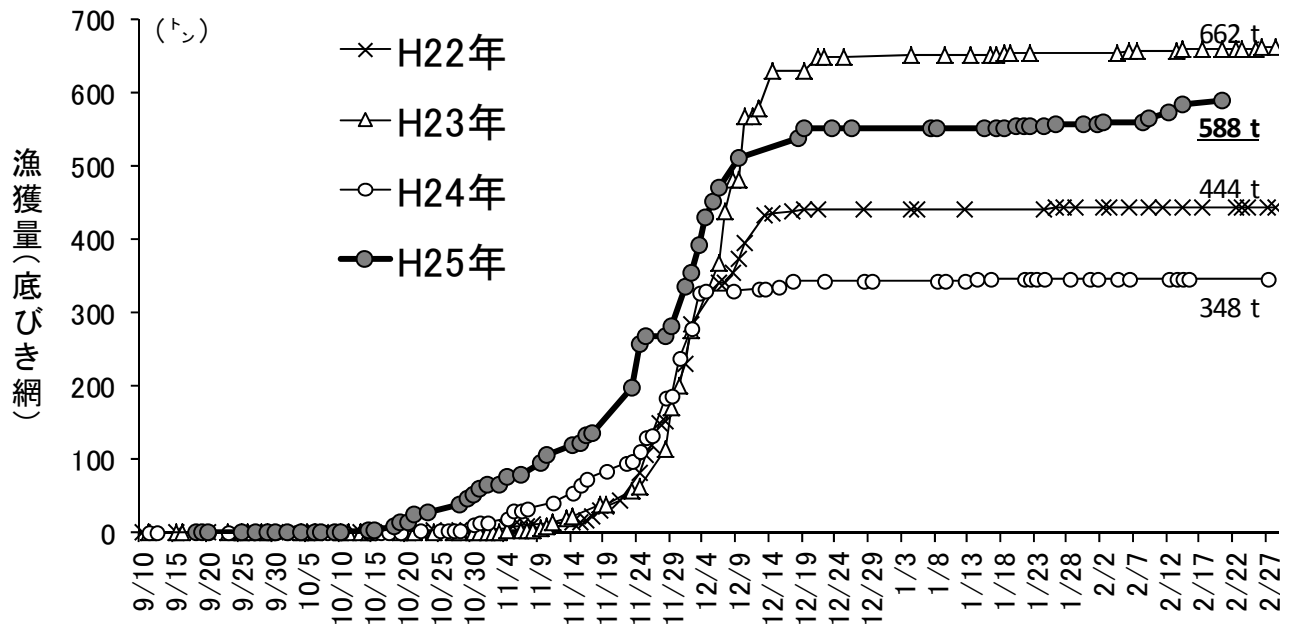


図5 底びき網漁獲量の推移(全県)

- 初水揚げは9月18日で、南部で18kgが水揚げされた。
- 今年2月20日時点の漁獲量は約588トン（漁獲枠の77%）で、H24年漁期の同期を約240トン上回った。
- 今漁期は10月中旬からまとまった漁獲があり、10月末時点では60トンと前年比4倍に達した。

8 底びき網漁獲量の地区別推移

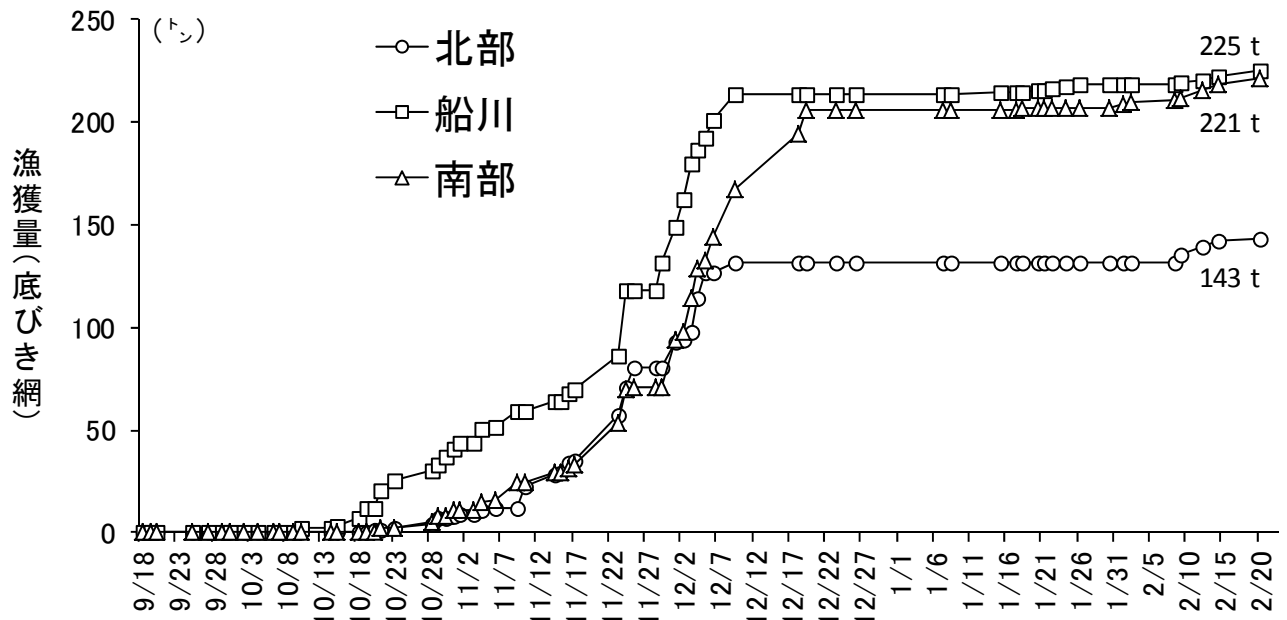


図6 底びき網漁獲量の地区別推移

※北部(岩館・北部総括)、船川(椿・船川総括)、南部(南部総括・象潟・平沢) (秋田県調べ)

- 今漁期初めは、例年より約1ヵ月早く、10月上旬から11月上旬にかけて男鹿半島西岸に漁場が形成された一方で、シグレ周辺での漁獲は低調に推移した。
- 11月中旬以降はシグレ周辺で漁獲されたが、群れの規模は概ね小さかったと推察された。
- 12月には全県的に漁場が形成されたが、群れは引き続き小規模であった。

9 沿岸漁獲量の推移

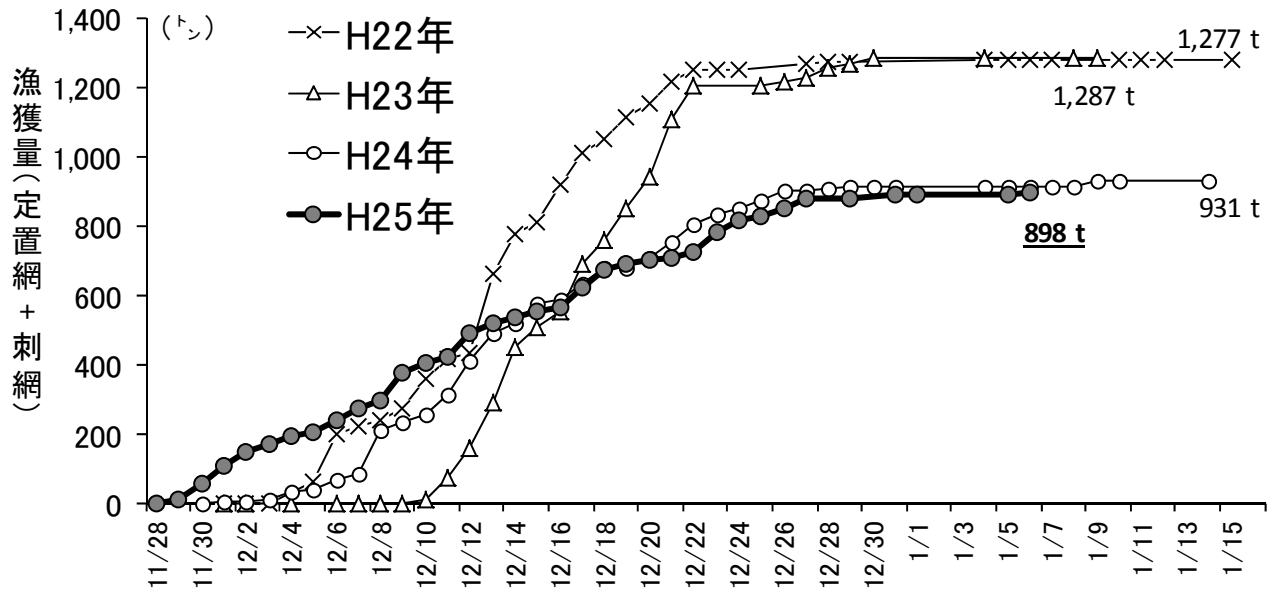


図7 沿岸漁獲量の推移(全県)

- 初漁日は11月28日で、男鹿南部(船川)で1.7トが水揚げされた。
- 今漁期の漁獲量は898ト(漁獲枠の78%)で、この10年間ではH19年漁期に次ぐ低水準だった。
- 漁獲量の伸びはここ数年ではかなり早かったが、その後は低調に推移した。

10 沿岸漁獲量の地区別推移

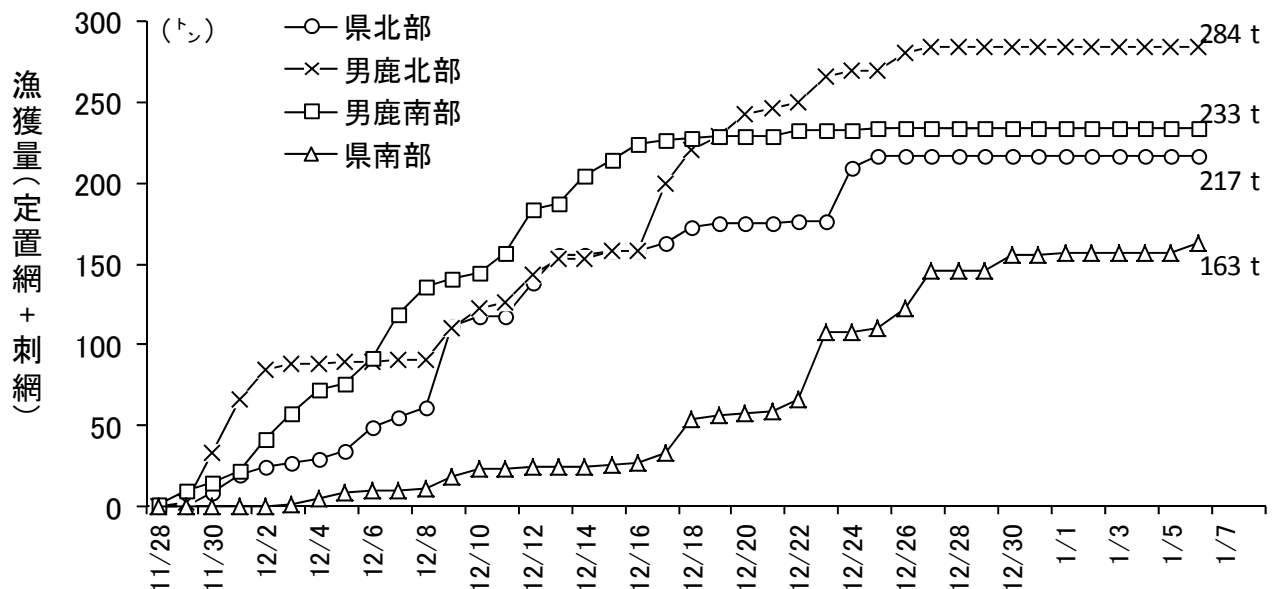


図8 沿岸漁獲量の地区別推移

※県北部(岩館～八竜)、男鹿北部(若美～戸賀)、男鹿南部(樺～天王)、県南部(秋田～平沢)
(水産漁港課調べ)

- 男鹿南部で初漁が記録された翌日に、県北部と男鹿北部でも漁獲され始めた。
- 男鹿北部での漁獲は低調に推移し、漁獲量は284トとこの13年間で最も少なかった。
- 男鹿南部では12月中旬まで好調に推移した。

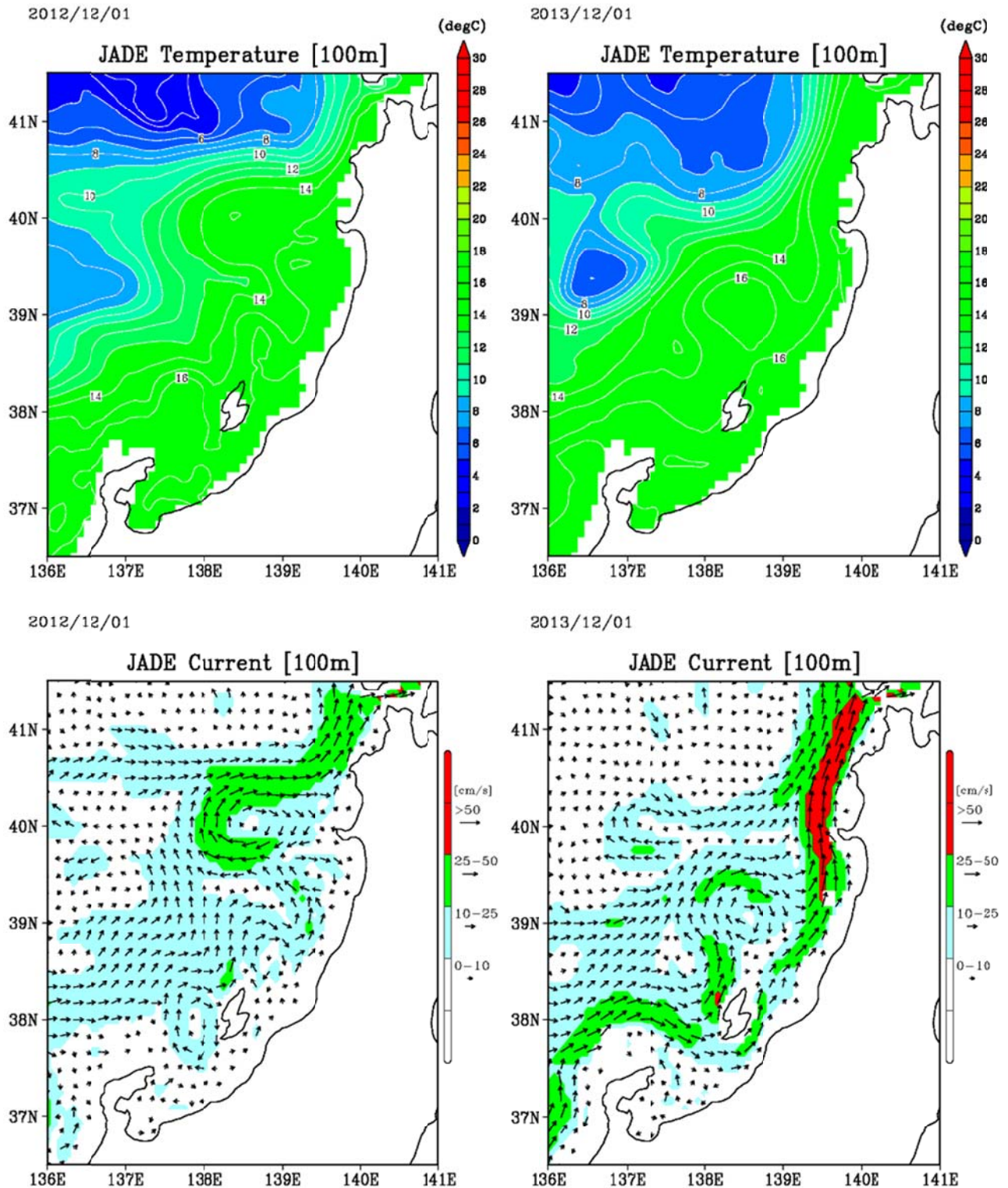


図9 日本海北部における12月1日の水温分布および流向・流速（水深100m帯）
（左列：H24年、右列：H25年、上段：水温分布、下段：流向・流速）

【日本海海況予測システム JADE による 12 月上旬水深 100m の海況】

- 岸よりの水温は昨年よりやや高め（※12月5日 入道崎沖 5 マイル観測値 16.6℃）。
- 潮流は北向きの流れがかなり強かった。

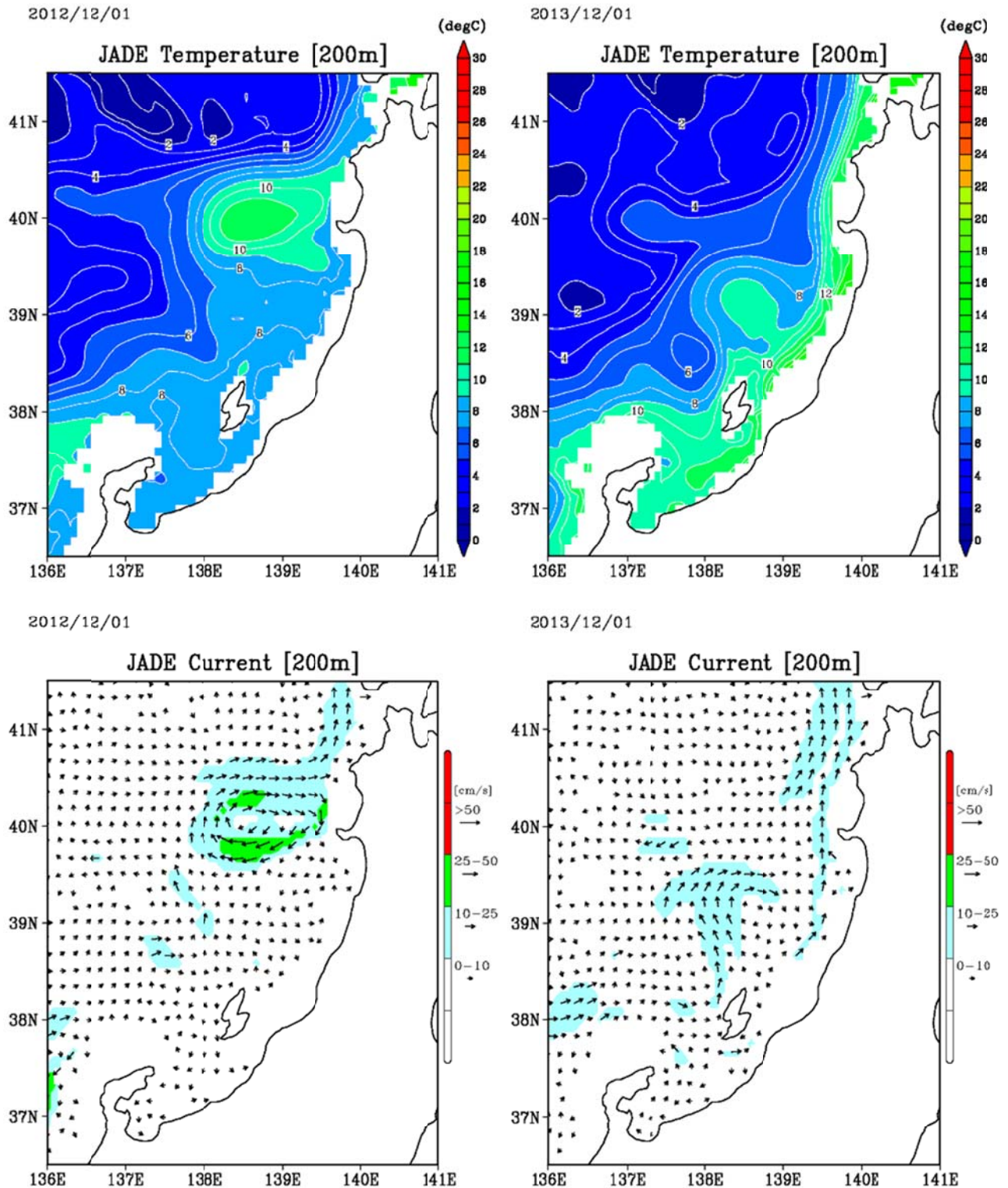


図10 日本海北部における12月1日の水温分布および流向・流速（水深200m帯）
（左列：H24年、右列：H25年、上段：水温分布、下段：流向・流速）

【日本海海況予測システム JADE による 12 月上旬水深 200m の海況】

- 岸よりの水温は、日本海北部のごく沿岸沿いで高い傾向。
（※12 月 5 日 千秋丸による入道崎沖 5 マイル観測値 5.7℃）
- 潮流は北向きの流れが強め。

11 今漁期のハタハタ体長組成

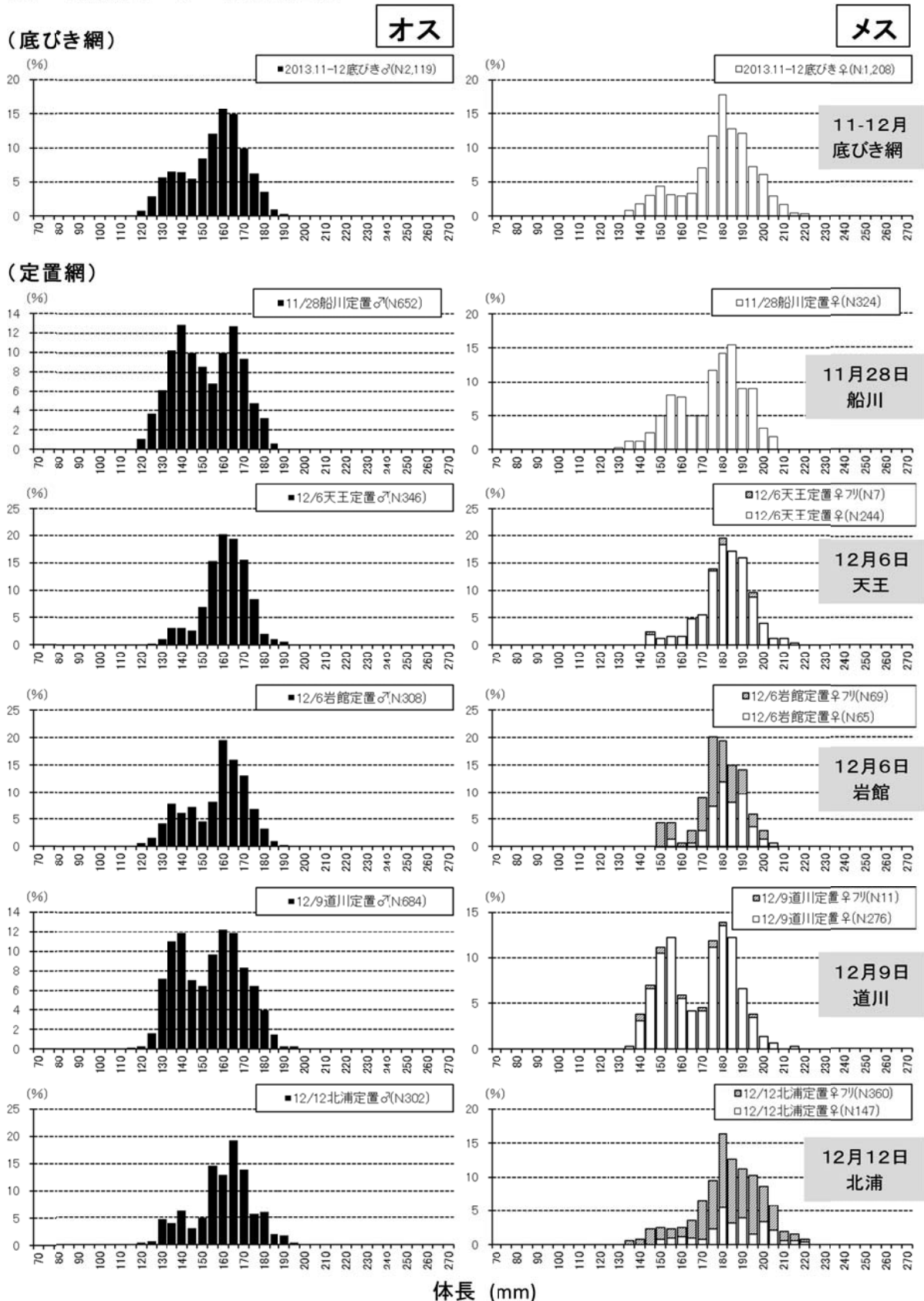


図11 H25年漁期の底びき網と定置網におけるハタハタ体長組成

- 底びき漁場での体長組成から、今期は2歳の割合が最も高く、次いで1歳が多いと推定された。
- 本年も漁獲日や漁場によって魚体組成や雌雄比が大きく異なった。岩館や北浦では、産卵後のメス(フリ)の割合が高い日が多かったことから、接岸群の規模は小さかった可能性が高い。

12 沿岸漁獲量の地区別推移

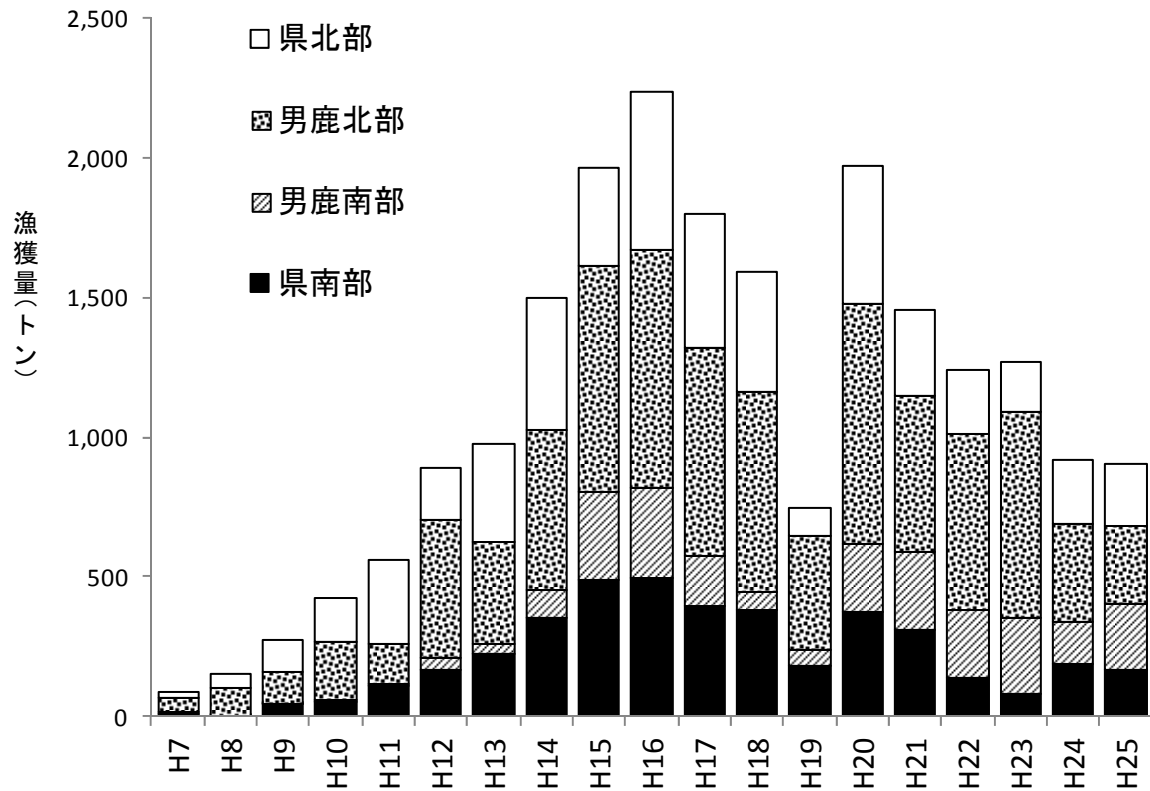


図12 沿岸漁獲量の地区別推移

※県北部(岩館～八竜)、男鹿北部(若美～戸賀)、男鹿南部(椿～天王)、県南部(秋田～平沢)
(水産漁港課調べ)

●ハタハタ漁獲量は減少傾向にあり、特に男鹿北部(北浦)での減少が目立つ。

表1 ハタハタ卵塊密度の推移

（個/m²）

地区	定点	調査年(産卵年の翌年: 2006年は3月に、他の年は1～2月に実施)															2014
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013		
岩館	Stn. 1 (小入川)	26.9	27.0	11.9	173.8	14.7	75.5	14.9	7.2	2.3	1.4	3.0	11.8	10.0	19.5	10.5	
	Stn. 2 (小入川)	12.6	4.1	21.1	231.8	39.4	6.4		27.5	86.9	1.0	2.0	1.1	2.4	2.8	N.D.	
	小入川増殖場			17.5	30.3	13.9											
八森	Stn. 1 (雄島)	0.3	0.0	0.1	8.2	0.0											
	Stn. 2 (ニッ森)	0.1	0.1	0.8	12.9	0.5	64.6		3.7	1.0	0.4	0.4	0.6	3.6	-	-	
	Stn. 3 (漁協脇)	15.7	3.2	25.9	116.8	25.3	23.0	59.2	67.8	57.7	7.7	85.1	53.5	71.0	250.8	11.7	
	Stn. 4 (滝ノ間)			53.2	192.8	112.8											
能代	Stn. 1 (南防波堤)	0.0															
	Stn. 2 (発電所取水口)	12.3	0.0														
	Stn. 4 (北防波堤)	6.6	0.0														
北浦	相川Stn. 1		1.6	0.2	91.9	0.0											
	相川Stn. 2	5.5	2.4	0.1	9.7	25.4	2.8	3.3	2.8	7.6	5.5	2.6	2.3	2.7	-	-	
	相川Stn. 3																
	相川Stn. 4																
	八斗崎Stn. 1 (0.5m)	0.1	8.6	0.0	19.7	9.9	17.7	2.9	4.5	9.6	189.9	137.1	128.9	91.8	136.6	N.D.	
	八斗崎Stn. 2 (1.5～2m)	1.7	1.1	0.2	12.6	70.1	13.3	0.5	0.7	0.1	1.5	1.4	1.0	6.3	2.4	N.D.	
	八斗崎Stn. 3 (2m)			7.7													
	八斗崎Stn. 4 (3m)			17.2	57.2												
	八斗崎Stn. 5 (4m)			13.0		87.7	41.1	8.4	4.2	0.0							
八斗崎Stn. 6 (6.5m)				21.6													
野村	1.6	5.9	0.0	2.1	11.3	6.9	14.0	10.7	0.9	4.6	21.9	2.2	1.8	-	-		
湯の尻	Stn. 1	0.0	0.0	0.2	1.9	16.3	1.8	2.1	6.1	2.6	42.1	13.6	14.6	2.5	7.4	N.D.	
	Stn. 2	0.0	1.5	8.9	4.5	26.2	20.6	10.0	2.9	7.9	11.0	7.0	11.5	5.7	4.7	N.D.	
戸賀	Stn. 1	0.0	0.0	0.0	2.7	0.8	6.6	0.1	26.8	17.4	0.1	9.3	18.4	39.4	6.4	-	
	Stn. 2	0.0	0.2	0.0	0.2	49.9	24.4	3.2	258.7	67.7	34.2	19.3	0.2	8.0	10.5	0.4	
	Stn. 3	0.0	0.0	0.0	31.4	5.3	1.4	7.6	3.8	32.6	6.9	29.0	1.4	35.7	-	-	
台島	Stn. 1	0.1	0.9	0.0		11.6	0.6	0.0									
	Stn. 2		0.5														
女川	Stn. 1		4.8														
	Stn. 2		2.3														
船川	備蓄Stn. 1	0.0	16.4	1.4													
	備蓄Stn. 2	1.2	120.0	56.5	3.0	17.7	72.5	61.6	46.6	263.3	271.2	289.6	273.7	253.4	150.4	32.7	
	備蓄Stn. 3														154.3	626.8	
	金川Stn. 1	0.0	0.2	0.0		0.5	0.1	0.0	2.0	4.5	12.9	22.9	19.8	18.9	-	-	
金川	Stn. 2	0.0	2.6	0.0		16.8	1.7	0.0	3.2	8.1	12.6	2.7	9.6	14.6	-	-	
平沢	Stn. 1	1.7	3.6	19.1	7.6	68.9		6.5	4.5	4.8	1.4	34.2	64.2	53.9	68.3	N.D.	
	Stn. 2 (鈴分港)	16.8	44.0	30.6	34.9	69.8	288.7	51.6	102.5	37.5	162.3	1.3	2.6	12.1	-	-	
	平沢			13.3													
金浦	Stn. 1	0.0	60.0	0.6													
	Stn. 2 (飛分港沖側防波堤)	8.0	57.0	1.3													
象潟	Stn. 1 (小淵分港)	21.2	1.5	0.0													
	Stn. 2																
	Stn. 3														45.4	N.D.	

※ - は、廃止した調査点を、N.D.は悪天候によりデータが得られなかった調査点を示す

【H25 年度調査結果（H26 年 1-2 月実施）】

- 県北部の岩館・八森の調査は、ふ化が進み海藻から脱落した卵塊も多かったため参考値とする。周辺の産卵状況から、卵塊密度は平年並みと判断。
- 船川では、備蓄 stn.2 における密度低下は調査区の植生変化に伴う減少、stn.3 の密度増加は藻場における卵塊密度の偏りによるもの。調査区周辺藻場の産卵状況を加味すると、今年の卵塊密度は昨年と同等かそれ以上の高い卵塊密度。
（※北浦沿岸および県南部では、時化のため調査実施せず）

13 海岸に漂着したハタハタ卵塊（打ち上げブリコ）の重量

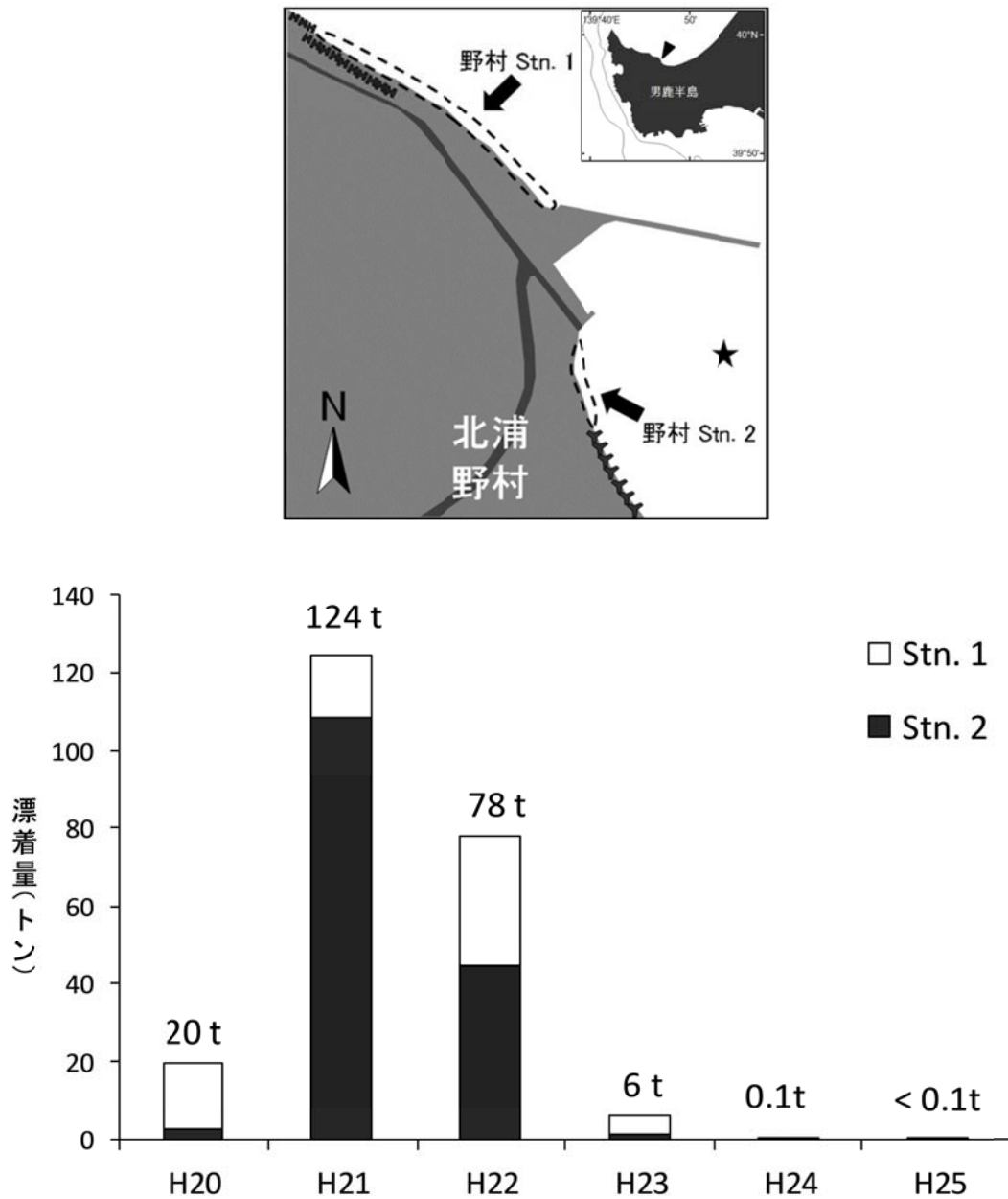


図13 北浦野村への漂着量の年変化

- H25年12月の野村海岸への漂着量は100kg未満と推定され、昨年よりもさらに少なかった。
- 12月には北浦湯の尻、船川羽立、県南部平沢で約1トン規模の漂着を確認した他は確認されず、漂着量はH24漁期と同様、全県的に少なかったと推定される。

H25年ハタハタ漁期のまとめ

【特 徴】

- ◎ 新潟～山形沿岸でのハタハタ漁獲量の減少
- ◎ 本県沿岸の底びき漁場形成パターンに変化
- ◎ 男鹿北部沿岸での低調な漁模様
- ◎ 青森県日本海沿岸での漁獲量の顕著な増加

【要 因】

- 11月下旬頃から、水深100～200m帯のごく岸寄りの水温が高めに推移したほか、北向きの潮流がかなり強かったと考えられ、これらが秋田～青森沿岸の産卵場への来遊に影響した可能性がある。
- 新潟県以北の漁獲状況から、ハタハタ資源の水準は昨年漁期に続き低水準と考えられ、このことが各漁場への来遊量の偏りを大きくしている可能性が高い。